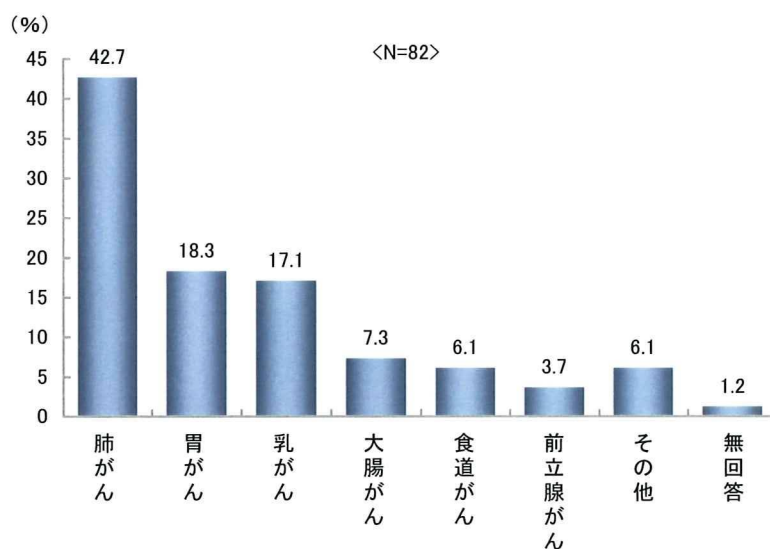


### 3. 診断された「がん」の種類

「肺がん」(42.7%)が最も多く、以下「胃がん」(18.3%)、「乳がん」(17.1%)、「大腸がん」(7.3%)、「食道がん」(6.1%)が続く。

《男性》は「肺がん」(50.0%)、「胃がん」(23.9%)、「食道がん」(8.7%)、《女性》は「乳がん」(38.9%)、「肺がん」(33.3%)、「胃がん」(11.1%)の順。

図 3. 診断された「がん」の種類（複数回答）



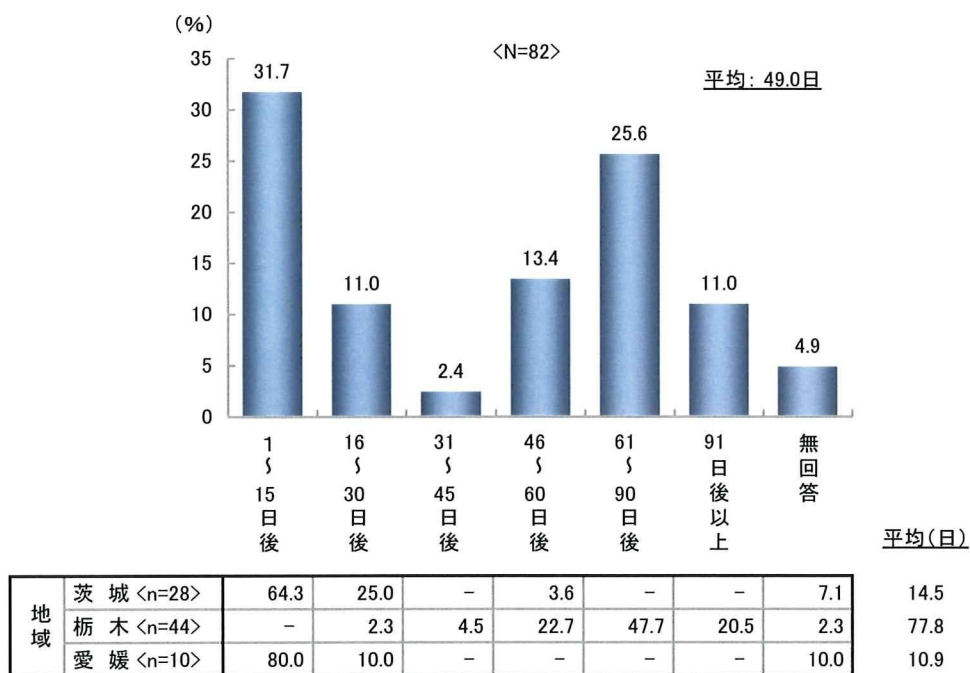
地域	茨城 <n=28>	100.0	-	-	-	-	-	3.6	-
	栃木 <n=44>	15.9	34.1	29.5	9.1	11.4	-	2.3	-
愛媛 <n=10>	-	-	10.0	20.0	-	30.0	30.0	10.0	
性別	男性 <n=46>	50.0	23.9	-	6.5	8.7	6.5	8.7	-
	女性 <n=36>	33.3	11.1	38.9	8.3	2.8	-	2.8	2.8

4. 『患者必携』を渡されてから何日後にアンケートに答えたか

「1～15 日後」(31.7%)が最も多く、以下「61～90 日後」(25.6%)、「46～60 日後」(13.4%)、「16～30 日後」、「91 日後以上」(各 11.0%)が続き、広範囲に分布。平均は「49.0 日」。

《茨城》、《愛媛》は、9割前後が「1～15 日後」、あるいは「16～30 日後」だが、《栃木》では約半数が「61～90 日後」(47.7%)。

図 4. 『患者必携』を渡されてから何日後にアンケートに答えたか



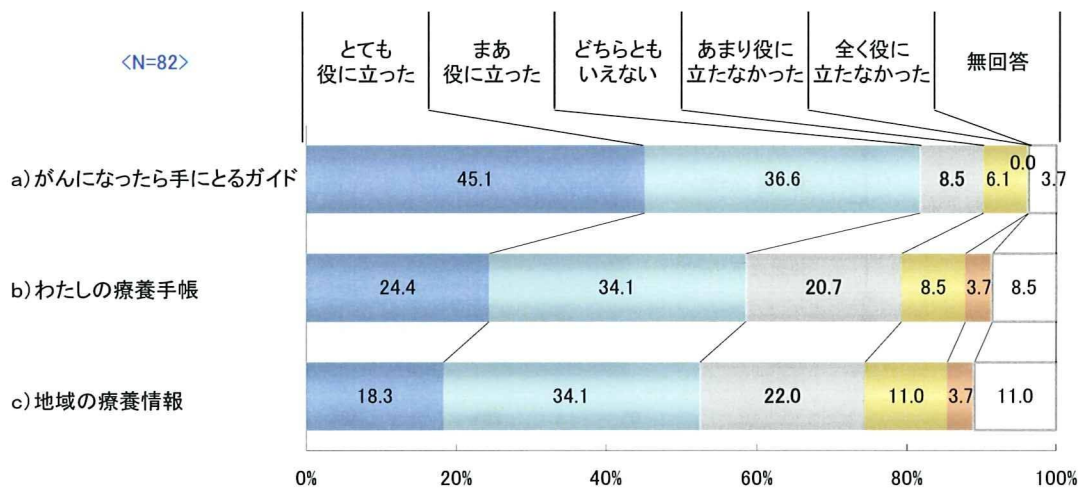
1. 『患者必携』は役に立ったか

“役に立った(とても+まあ)”割合は、

- a)『がんになったら手にとるガイド』-----81.7% (「とても役に立った」45.1%)
- b)『わたしの療養手帳』-----58.5% (「とても役に立った」24.4%)
- c)『地域の療養情報』-----52.4% (「とても役に立った」18.3%)

となっており、『がんになったら手にとるガイド』に対する評価は極めて高いが、『わたしの療養手帳』、『地域の療養情報』は5割台にとどまり、1割強が“役に立たなかった”。

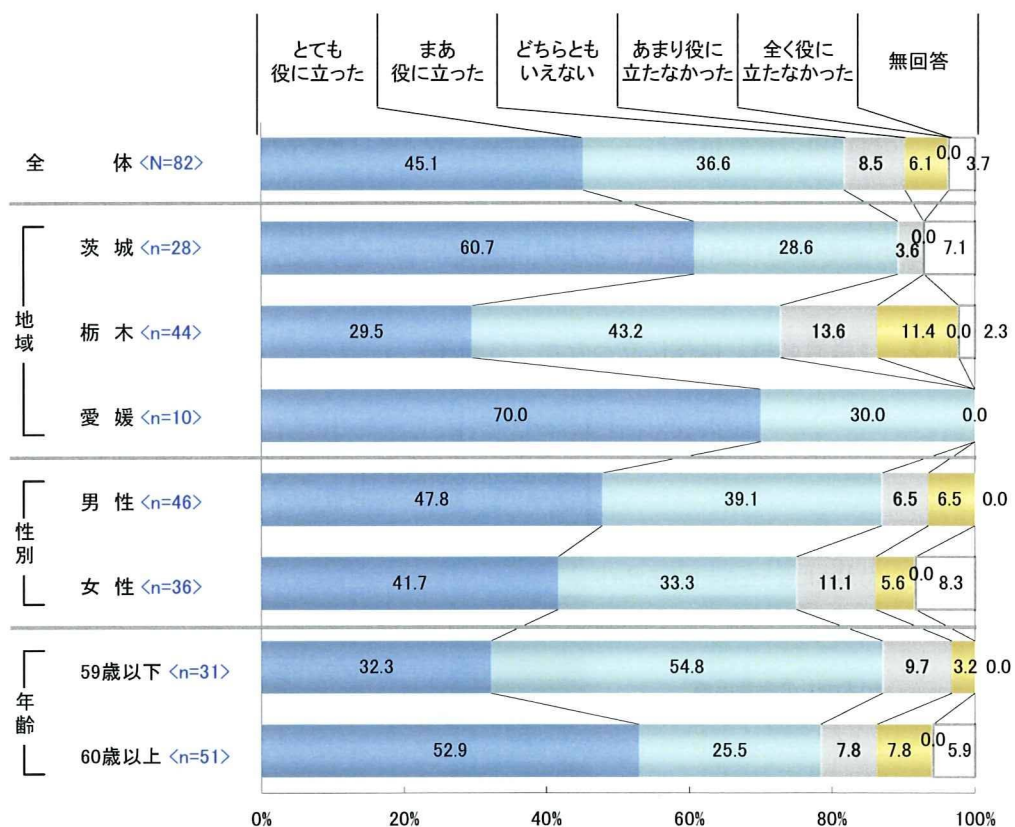
図 5. 『患者必携』は役に立ったか (3冊子)



### 1-1. 『がんになったら手にとるガイド』は役に立ったか

「とても役に立った」(45.1%)が半数近く、「まあ役に立った」(36.6%)を合わせると8割強が「役に立った」(81.7%)としており、評価は極めて高い。一方、「(あまり)役に立たなかった」(6.1%)は1割にも達しない。

図 6. 『がんになったら手にとるガイド』は役に立ったか



地域別にみると、「役に立った」割合が、《愛媛》(100.0%)、《茨城》(89.3%)に比べて《栃木》(72.7%)の低さが目立つ。《栃木》では「どちらともいえない」(13.6%)、「(あまり)役に立たなかった」(11.4%)がそれぞれ1割強みられた。

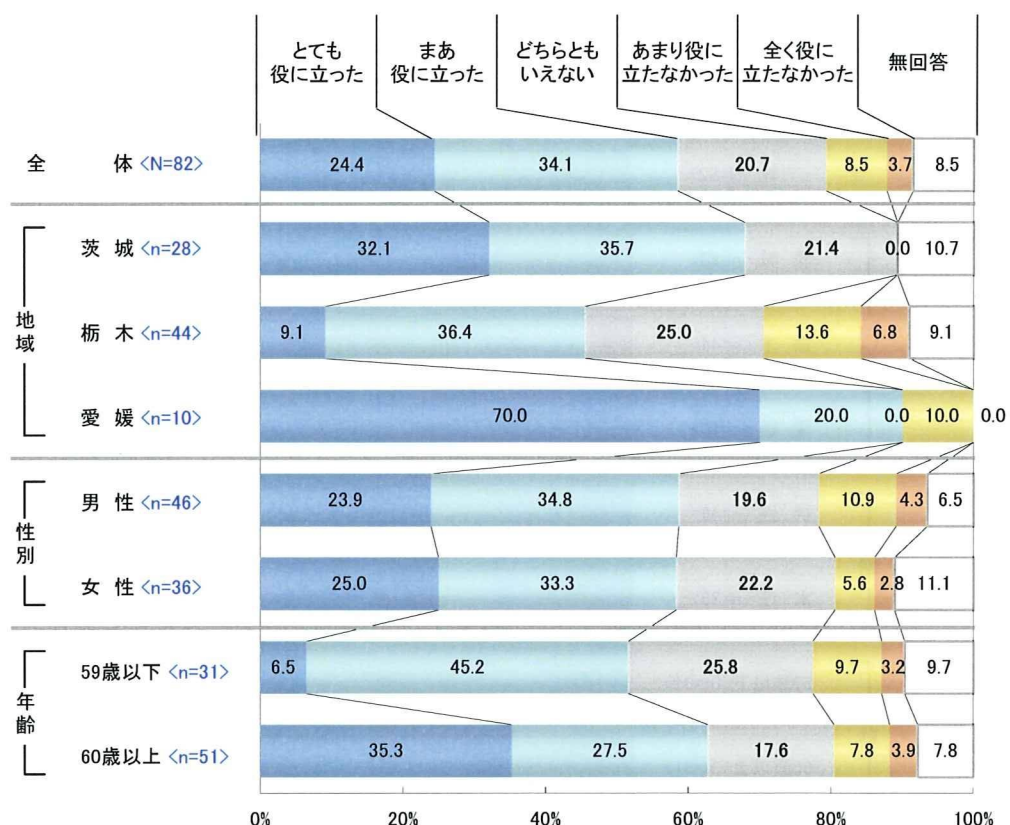
性別にみると、「役に立った」割合は、《女性》(75.0%)より《男性》(87.0%)の方が12ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「役に立った」割合は、《60歳以上》(78.4%)より《59歳以下》(87.1%)の方が高めである。

## 1-2. 『わたしの療養手帳』は役に立ったか

「とても役に立った」(24.4%)、あるいは「まあ役に立った」(34.1%)を合わせて、6割弱(58.5%)が“役に立った”。一方、“役に立たなかった(あまり+全く)”は1割強(12.2%)。

図 7. 『わたしの療養手帳』は役に立ったか



地域別にみると、“役に立った”割合は《愛媛》(90.0%)が最も高く、次いで《茨城》(67.9%)、ここでも《栃木》(45.5%)が最も低率である。《栃木》では2割(20.5%)が“役に立たなかった”と評価している。

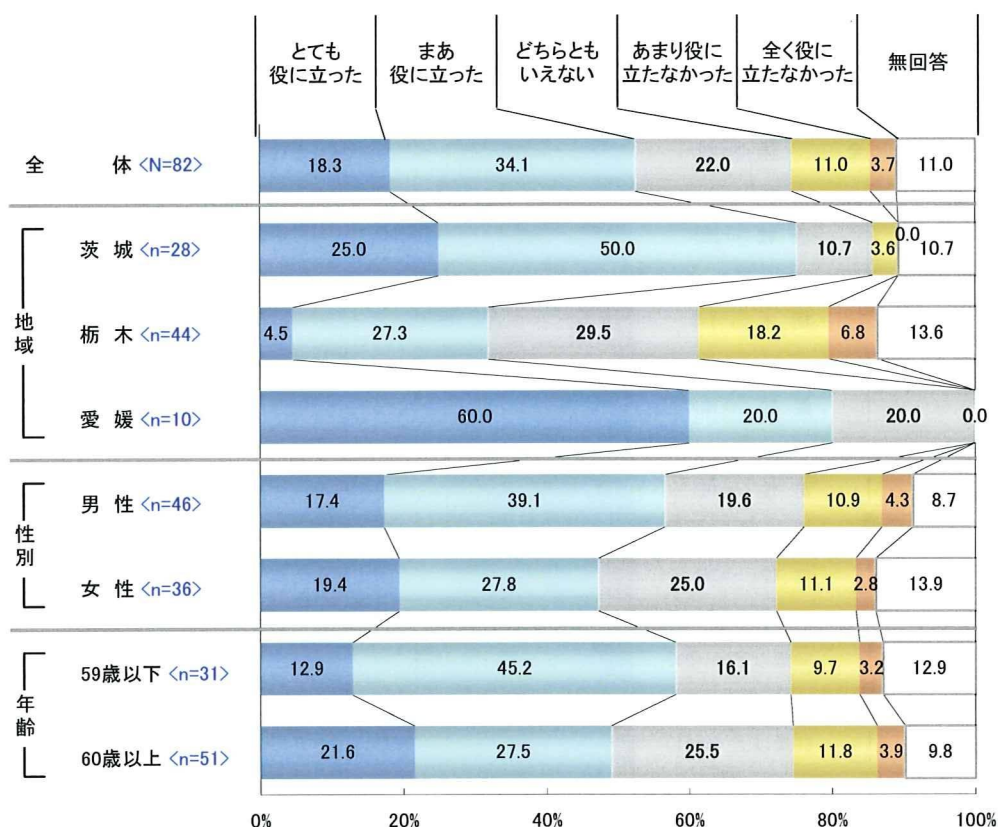
性別にみると、“役に立った”割合は、《男性》が58.7%、《女性》は58.3%と同程度だが、《男性》では“役に立たなかった”(15.2%)割合が、《女性》(8.3%)に比べて高めである。

年齢別にみると、“役に立った”割合は、《60歳以上》(62.7%)の方が《59歳以下》(51.6%)より11ポイントほど高くなっている。

### 1-3. 『地域の療養情報』は役に立ったか

「とても役に立った」(18.3%)、あるいは「まあ役に立った」(34.1%)を合わせて、“役に立った”は5割強(52.4%)と、前述の2つより低い。一方、“役に立たなかった(あまり+全く)”が1割強(14.6%)。

図 8. 『地域の療養情報』は役に立ったか



地域別にみると、“役に立った”割合は、《栃木》が 31.8%と半数を割り、《愛媛》(80.0%)、《茨城》(75.0%)に比べてかなり低率である。《栃木》では“役に立たなかった”(25.0%)が4人に1人の割合となっている。

性別にみると、“役に立った”割合は、《男性》(56.5%)の方が《女性》(47.2%)より10ポイント近く高い。また、いずれも“役に立たなかった”が15%前後みられた。

年齢別にみると、“役に立った”割合は、《60歳以上》(49.0%)より《59歳以下》(58.1%)の方が10ポイントほど高くなっている。

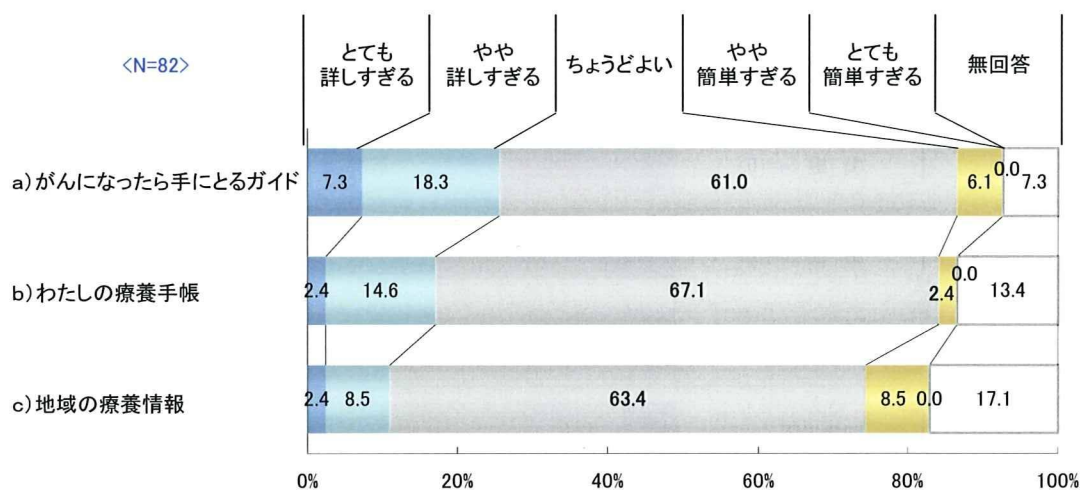
## 2. 『患者必携』の書かれている内容に対する評価

『患者必携』の内容に対する評価は、

	< 詳しすぎる >	< ちょうどよい >	< 簡単すぎる >
a) 『がんになったら手にとるガイド』-----	25.6%	61.0%	6.1%
b) 『わたしの療養手帳』-----	17.1%	67.1%	2.4%
c) 『地域の療養情報』-----	11.0%	63.4%	8.5%

となっており、いずれも「ちょうどよい」との評価が6割台。『がんになったら手にとるガイド』は4人に1人(25.6%)が“詳しすぎる”。

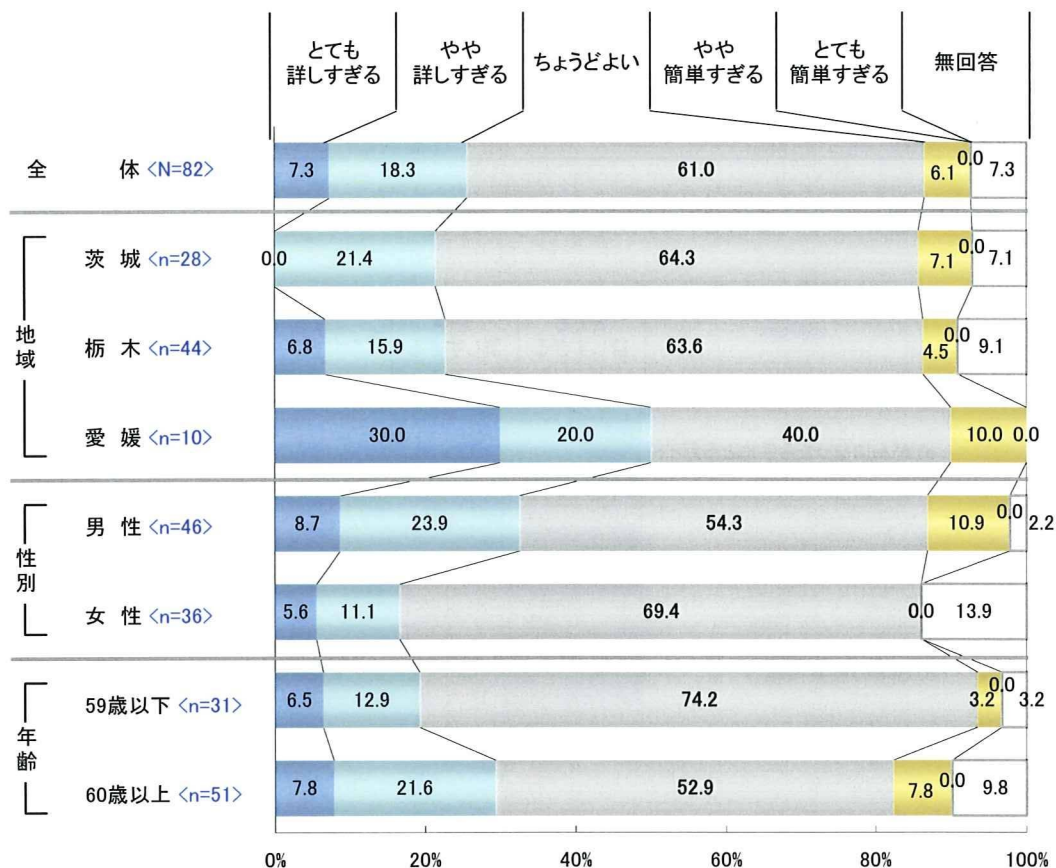
図 9. 書かれている内容に対する評価 (3冊子)



## 2-1. 『がんになったら手にとるガイド』の内容に対する評価

「ちょうどよい」(61.0%)という人が過半数を占め、評価はかなり高い。しかし、「とても詳しくすぎる」(7.3%)、「やや詳しくすぎる」(18.3%)を合わせた“詳しくすぎる”という人も 25.6%と、4人に1人の割合を示している。また、“(やや)簡単すぎる”(6.1%)という人も少数みられる。

図 10. 『がんになったら手にとるガイド』の内容は詳しくすぎるか、簡単すぎるか



地域別にみると、《茨城》、《栃木》では「ちょうどよい」が6割台（順に 64.3%、63.6%）を示し、評価は高くなっている。しかし、《愛媛》では4割（40.0%）にとどまり、半数が“詳しくすぎる”（50.0%）と評価している。

性別にみると、「ちょうどよい」という割合は《男性》が 54.3%、《女性》が 69.4%と、いずれも過半数を占めているが、《女性》の方が 15 ポイントほど高くなっている。その分、《男性》では“詳しくすぎる”（32.6%）が《女性》（16.7%）より高い。

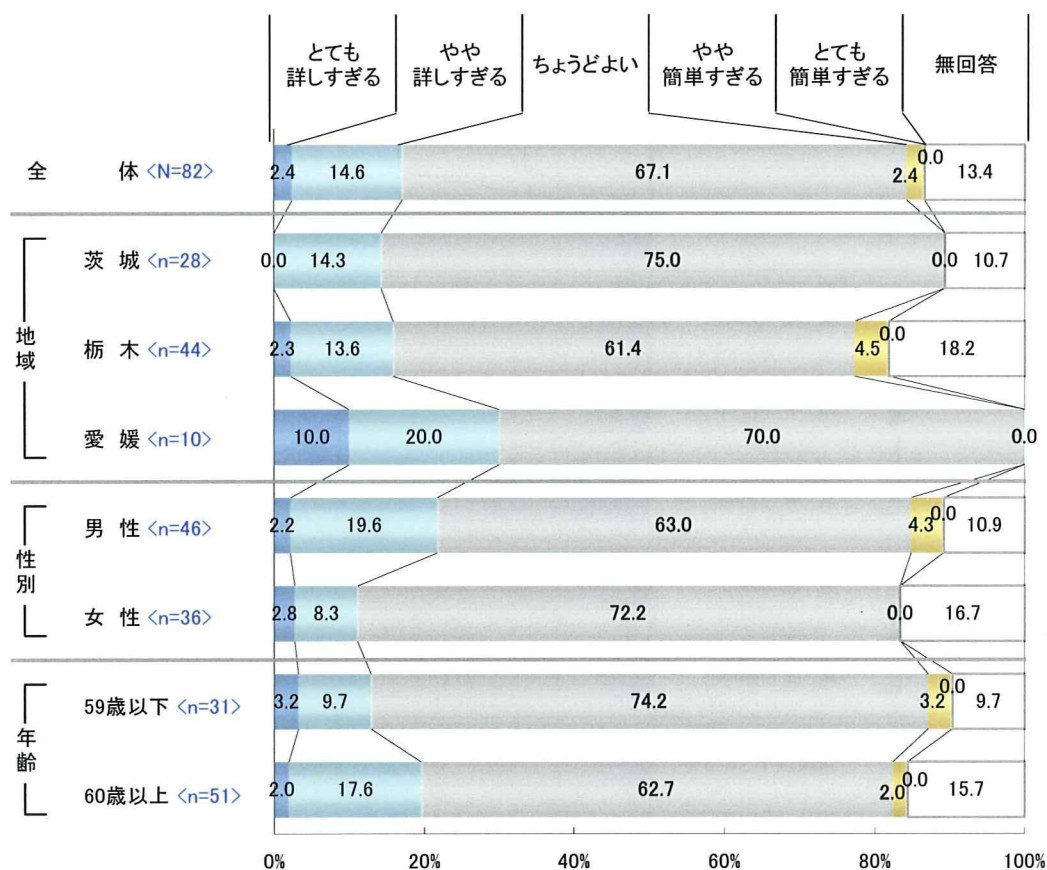
年齢別にみると、「ちょうどよい」という割合は《59歳以下》（74.2%）の方が《60歳以上》（52.9%）より 20 ポイント以上高くなっている。《60歳以上》では3割近くが“詳しくすぎる”（29.4%）と評価している。



## 2-2. 『わたしの療養手帳』の内容に対する評価

「ちょうどよい」(67.1%)という人が過半数を占め、評価はかなり高い。一方、「とても詳しくすぎる」(2.4%)、「やや詳しくすぎる」(14.6%)を合わせた“詳しくすぎる”という人は2割弱(17.1%)。

図 11. 『わたしの療養手帳』の内容は詳しくすぎるか、簡単すぎるか



地域別にみると、いずれの地域も「ちょうどよい」との評価が過半数を占めているが、その割合は《茨城》(75.0%)、《愛媛》(70.0%)、《栃木》(61.4%)の順である。なお、《愛媛》では“詳しくすぎる”(30.0%)との評価も目につく。

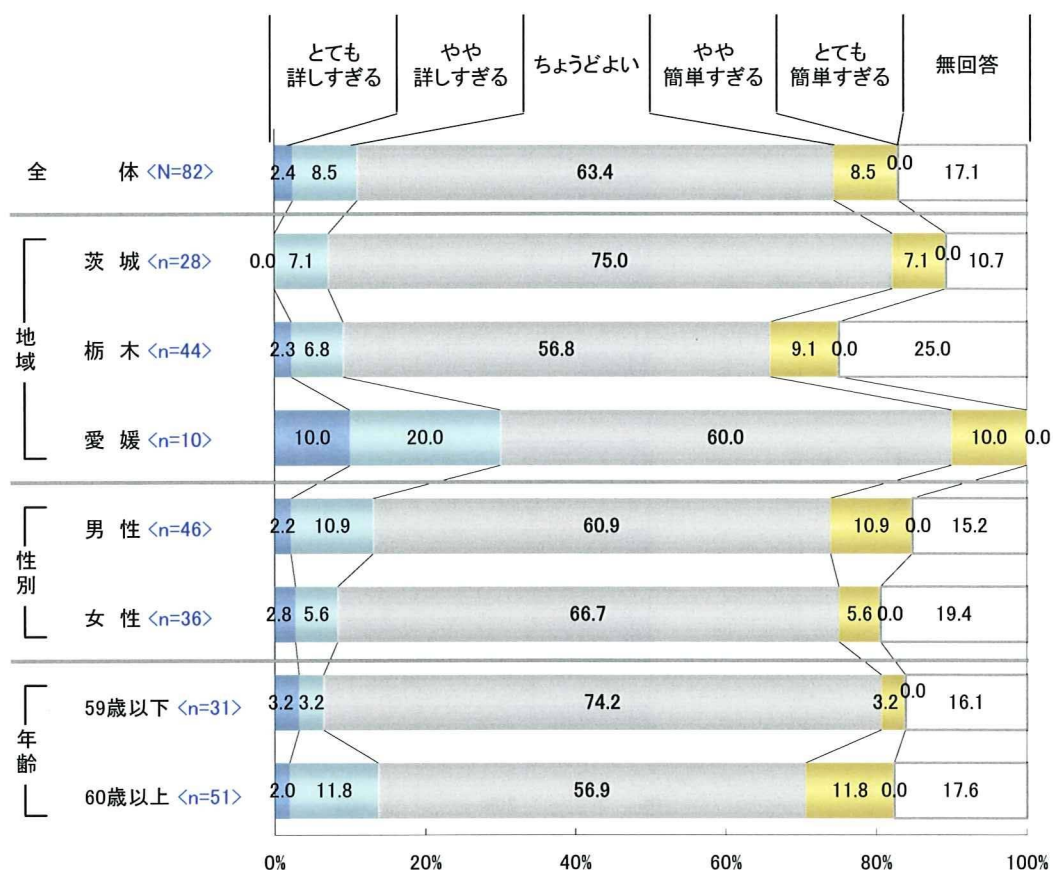
性別にみると、「ちょうどよい」という割合は《男性》が63.0%、《女性》が72.2%と、いずれも過半数を占めているが、《女性》の方が10ポイントほど高くなっている。《男性》では“詳しくすぎる”(21.7%)が《女性》(11.1%)の2倍近い値を示している。

年齢別にみると、「ちょうどよい」という割合は《59歳以下》(74.2%)の方が《60歳以上》(62.7%)より10ポイント以上高くなっている。《60歳以上》では2割弱が“詳しくすぎる”(19.6%)と評価している。

## 2-3. 『地域の療養情報』の内容に対する評価

「ちょうどよい」(63.4%)という人が前述の2冊子同様、6割台を占め、評価はかなり高い。一方、「とても詳しくすぎる」(2.4%)、「やや詳しくすぎる」(8.5%)を合わせた“詳しくすぎる”という人は1割強(11.0%)で、3冊子の中で最も低率。

図 12. 『地域の療養情報』の内容は詳しくすぎるか、簡単すぎるか



地域別にみると、いずれの地域も「ちょうどよい」との評価が過半数を占めているが、その割合は《茨城》(75.0%)、《愛媛》(60.0%)、《栃木》(56.8%)の順である。なお、《愛媛》では“詳しくすぎる”(30.0%)との評価が目につく。

性別にみると、「ちょうどよい」という割合は《男性》(60.9%)より《女性》(66.7%)の方が高めである。

年齢別にみると、「ちょうどよい」という割合は《59歳以下》(74.2%)の方が《60歳以上》(56.9%)より17ポイントほど高くなっている。

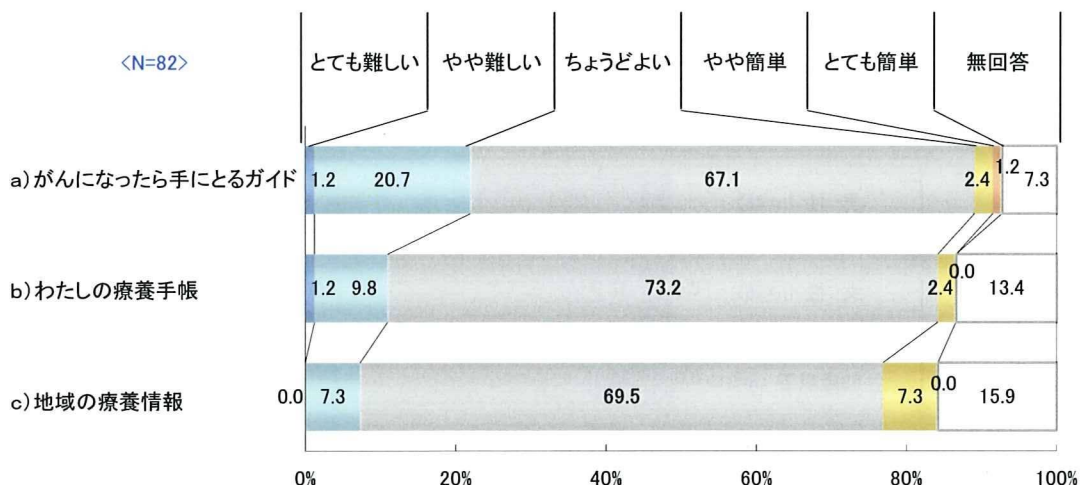
### 3. 『患者必携』の表現に対する評価

『患者必携』の表現に対する評価は、

	<難しい>	<ちょうどよい>	<簡単>
a)『がんになったら手にとるガイド』-----	22.0%	67.1%	3.7%
b)『わたしの療養手帳』-----	11.0%	73.2%	2.4%
c)『地域の療養情報』-----	7.3%	69.5%	7.3%

となっており、いずれも「ちょうどよい」との評価が過半数を占めるが、『がんになったら手にとるガイド』で2割強(22.0%)、『わたしの療養手帳』で1割強(11.0%)が“難しい”と評価。

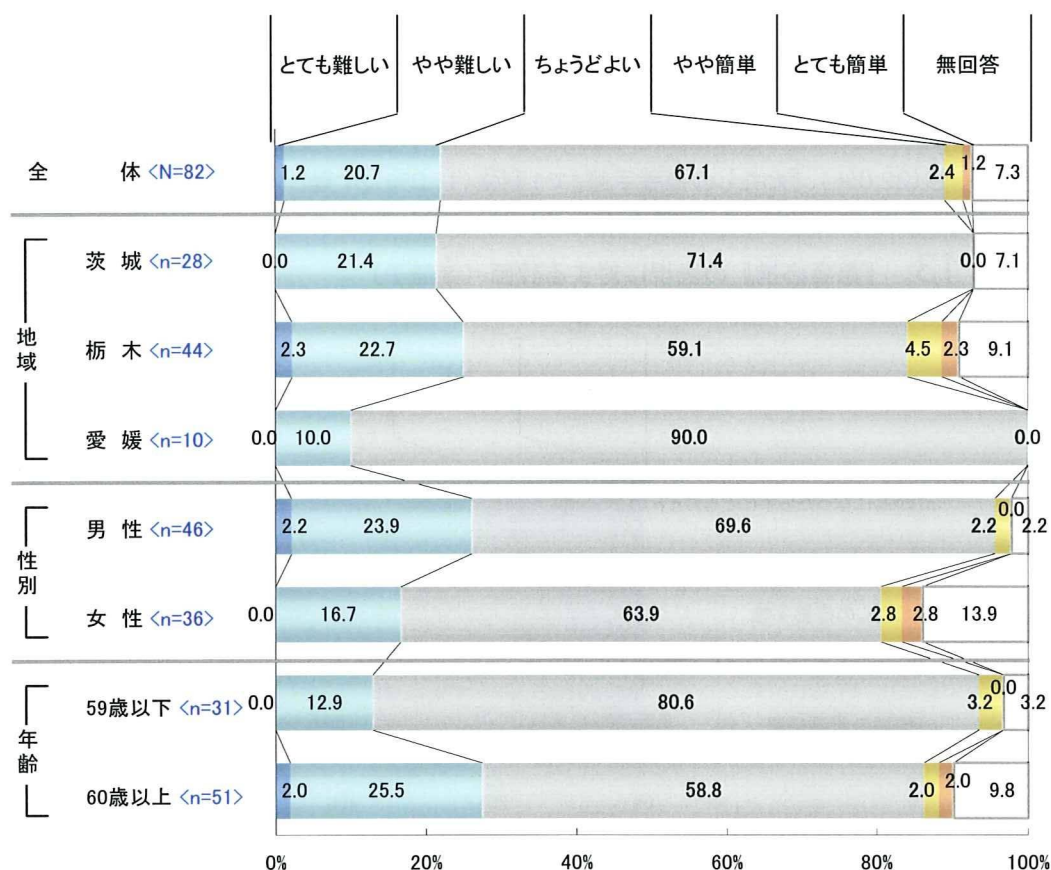
図 13. 『患者必携』の表現に対する評価（3冊子）



### 3-1. 『がんになったら手にとるガイド』の表現に対する評価

「ちょうどよい」という人が 67.1%と、3人に2人強の割合だが、「とても難しい」(1.2%)、「やや難しい」(20.7%)など、“難しい”が2割強(22.0%)。

図 14. 『がんになったら手にとるガイド』の表現に対する評価



地域別にみると、いずれの地域も「ちょうどよい」との評価が過半数を占めているが、その割合は、《愛媛》(90.0%)、《茨城》(71.4%)に比べて、《栃木》(59.1%)の低さが目につく。なお、《茨城》、《栃木》では“難しい”(順に21.4%、25.0%)が2割台みられた。

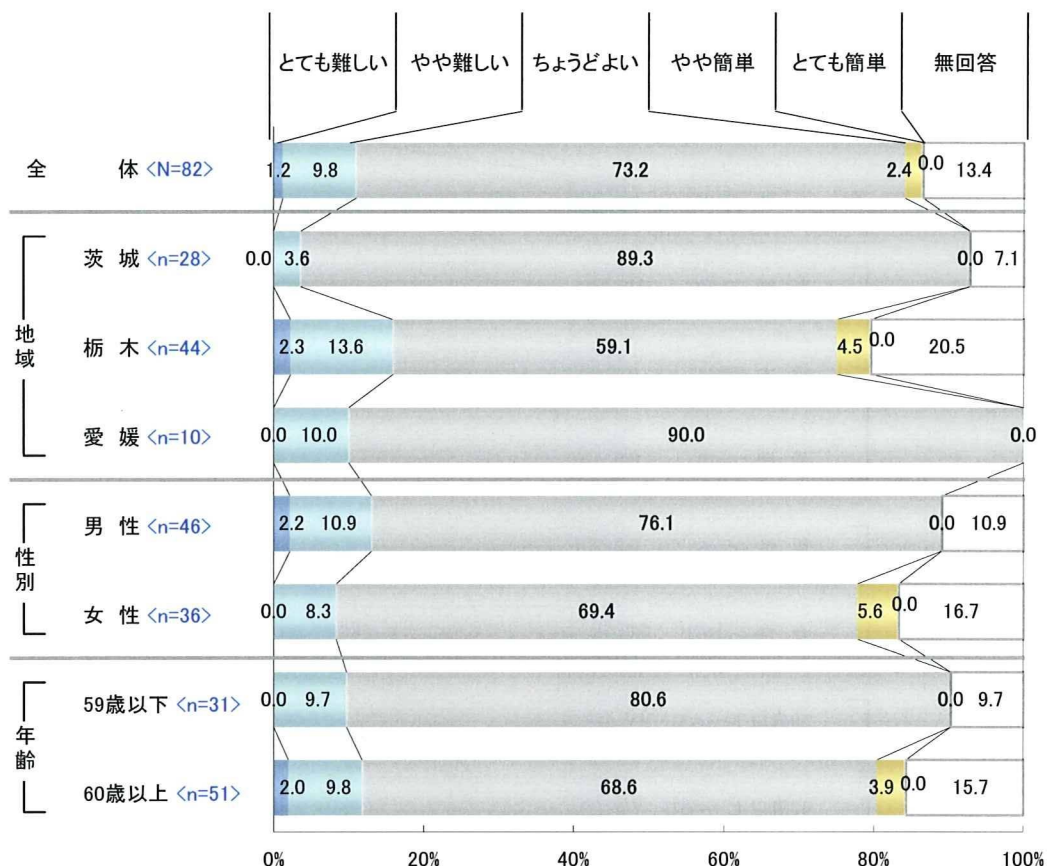
性別にみると、「ちょうどよい」という割合は《女性》(63.9%)より《男性》(69.6%)の方が高めである。また、《男性》では“難しい”(26.1%)との評価が目立つ。

年齢別にみると、「ちょうどよい」という割合は《59歳以下》(80.6%)の方が《60歳以上》(58.8%)より20ポイント以上高くなっている。

### 3-2. 『わたしの療養手帳』の表現に対する評価

「ちょうどよい」(73.2%)が、ほぼ4人に3人の割合で3冊子の中で最も高率である。

図 15. 『わたしの療養手帳』の表現に対する評価



地域別にみると、いずれの地域も「ちょうどよい」との評価が過半数を占めているが、その割合は、前述の『がんになったら手にとるガイド』同様、《愛媛》(90.0%)、《茨城》(89.3%)に比べて、《栃木》(59.1%)の低さが目につく。

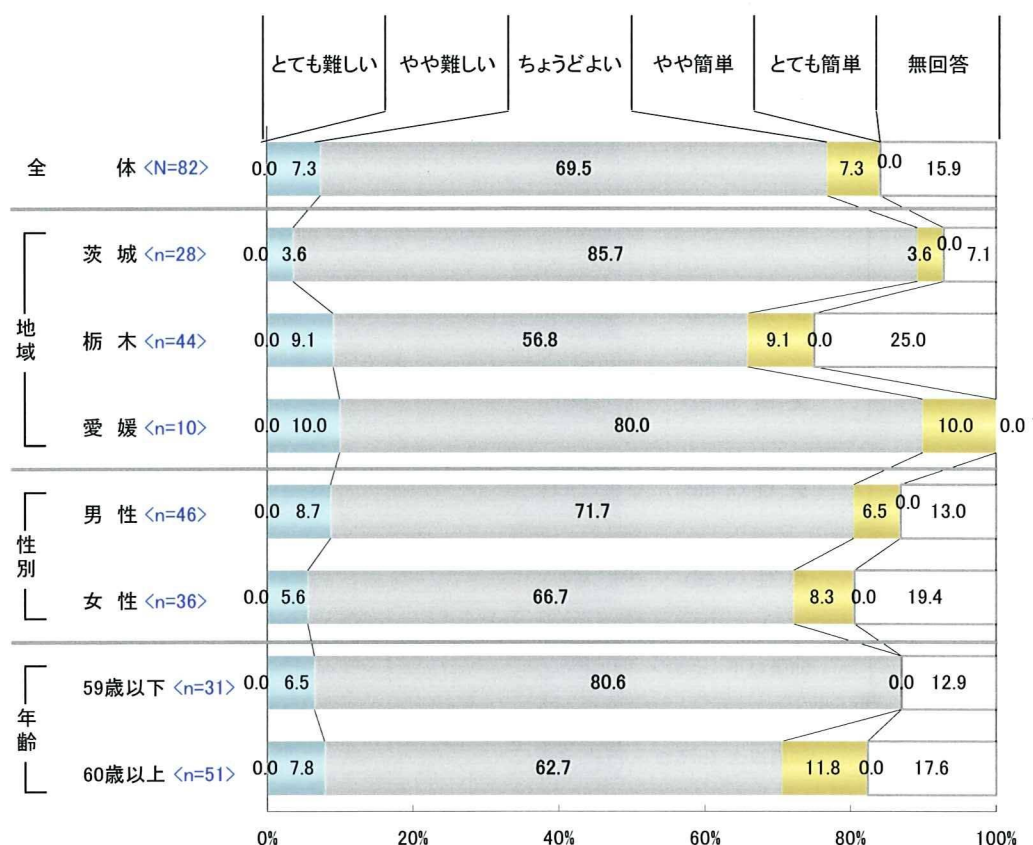
性別にみると、「ちょうどよい」という割合は《女性》(69.4%)より《男性》(76.1%)の方が高めである。

年齢別にみると、「ちょうどよい」という割合は《59歳以下》(80.6%)の方が《60歳以上》(68.6%)より12ポイント高くなっている。

### 3-3. 『地域の療養情報』の表現に対する評価

「ちょうどよい」(69.5%)が7割を占め、「難しい」、「簡単」(各 7.3%)との評価がそれぞれ1割弱。

図 16. 『地域の療養情報』の表現に対する評価



地域別にみると、いずれの地域も「ちょうどよい」との評価が過半数を占めているが、その割合は、前述の2冊子同様、《茨城》(85.7%)、《愛媛》(80.0%)に比べて、《栃木》(56.8%)はやや低めである。

性別にみると、「ちょうどよい」という割合は《女性》(66.7%)より《男性》(71.7%)の方が高めである。

年齢別にみると、「ちょうどよい」という割合は《59歳以下》(80.6%)の方が《60歳以上》(62.7%)より17ポイント以上高くなっている。

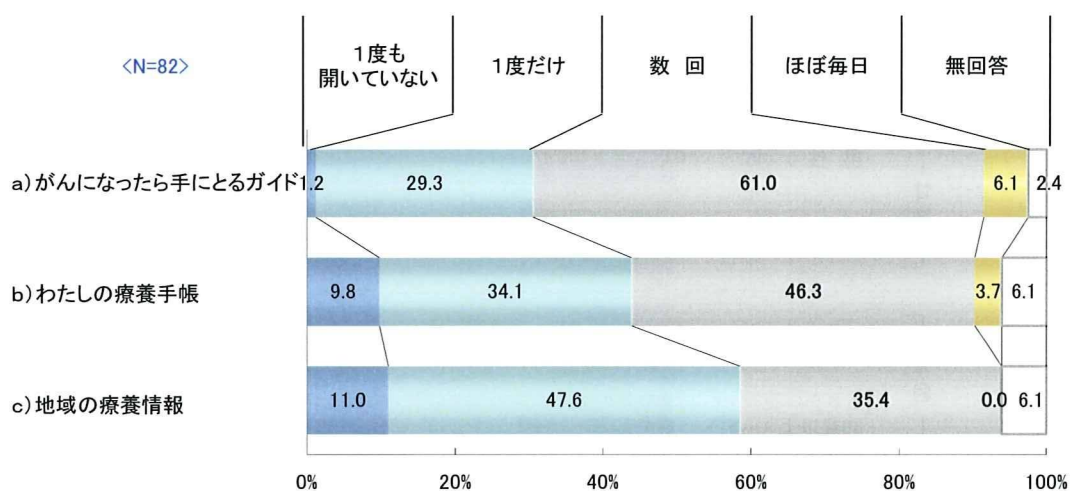
#### 4. 『患者必携』をどの程度利用したか

『患者必携』をどの程度利用したかをみると、

	<利用率>	<うち、1度だけ>	<うち、数回>
a)『がんになったら手にとるガイド』	96.3%	29.3%	61.0%
b)『わたしの療養手帳』	84.1%	34.1%	46.3%
c)『地域の療養情報』	82.9%	47.6%	35.4%

となっており利用程度はかなり高い。特に、『がんになったら手にとるガイド』の利用率(96.3%)は極めて高い。しかし、「1度も開いていない」という人もみられ、『わたしの療養手帳』(9.8%)、『地域の療養情報』(11.0%)ではそれぞれ1割前後の割合を示している。

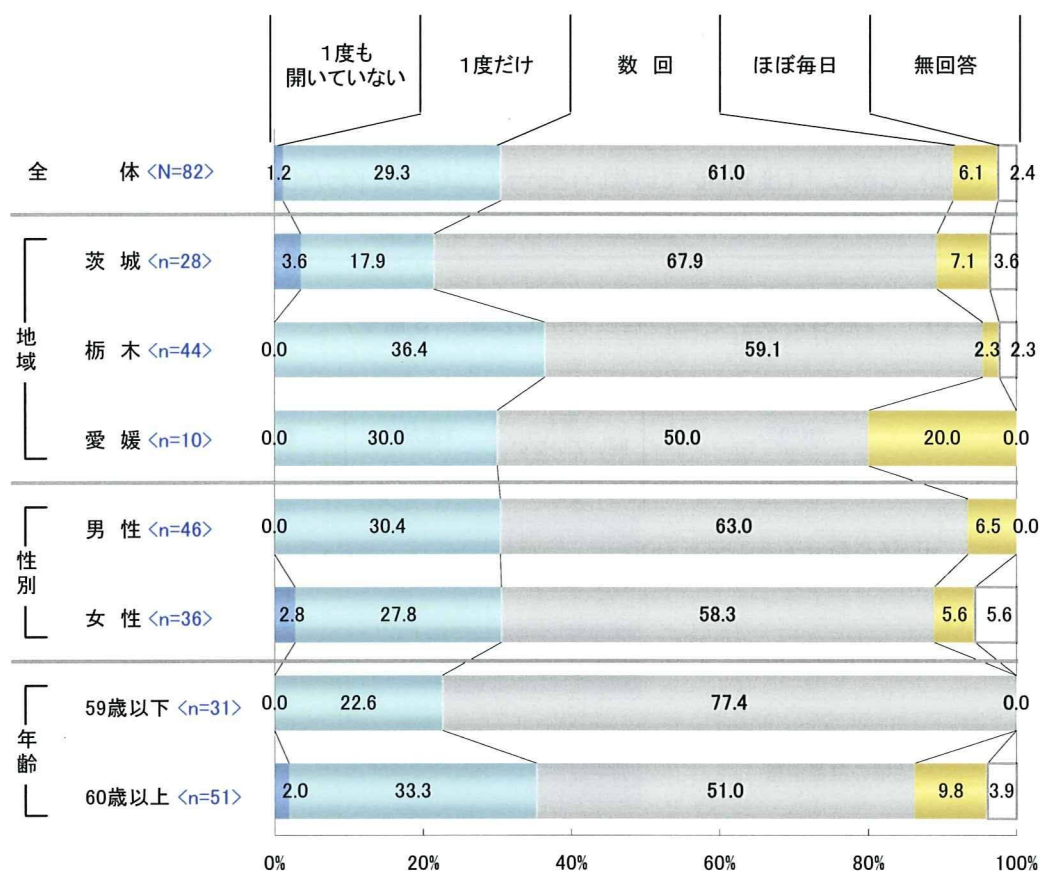
図 17. 『患者必携』をどの程度利用したか (3冊子)



#### 4-1. 『がんになったら手にとるガイド』をどの程度利用したか

「1度だけ」(29.3%)、「数回」(61.0%)、「ほぼ毎日」(6.1%)を合わせた利用率(“1度以上利用した”) (96.3%)は3冊子中、最も高い。

図 18. 『がんになったら手にとるガイド』をどの程度利用したか



地域別にみると、いずれの地域も利用率が9割以上と高い。特に、《愛媛》(100.0%)は全員が利用しており、「ほぼ毎日」(20.0%)という人も2割みられる。

性別にみると、利用率は《男性》が100.0%と全員、《女性》も9割強(91.7%)を示している。

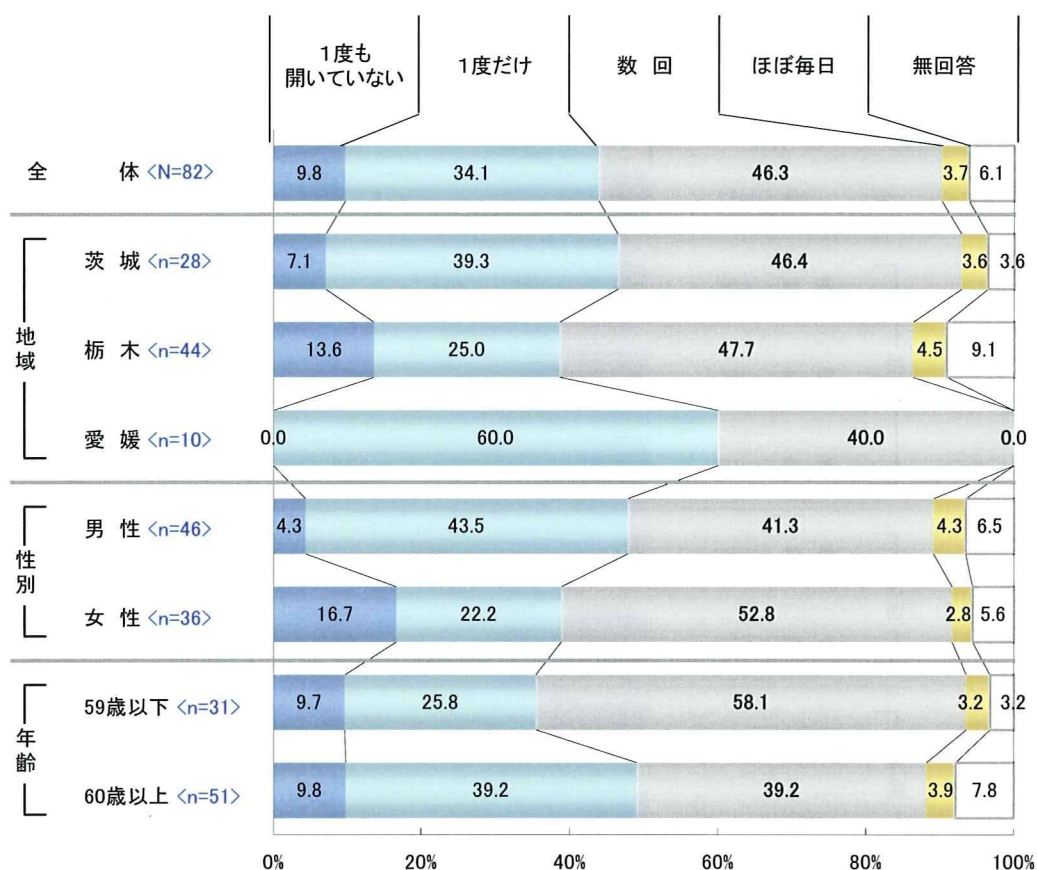
年齢別にみると、利用率は《59歳以下》(100.0%)では全員の割合、《60歳以上》も9割以上(94.1%)と高い。



#### 4-2. 『わたしの療養手帳』をどの程度利用したか

「1度だけ」(34.1%)、「数回」(46.3%)、「ほぼ毎日」(3.7%)を合わせた、利用率は8割強(84.1%)。ただし、「1度も開いていない」(9.8%)という人も1割近くみられる。

図 19. 『わたしの療養手帳』をどの程度利用したか



地域別にみると、前述の『がんになったら手にとるガイド』同様、《愛媛》の利用率(100.0%)が全員の割合で、次いで《茨城》(89.3%)、《栃木》(77.3%)の順である。

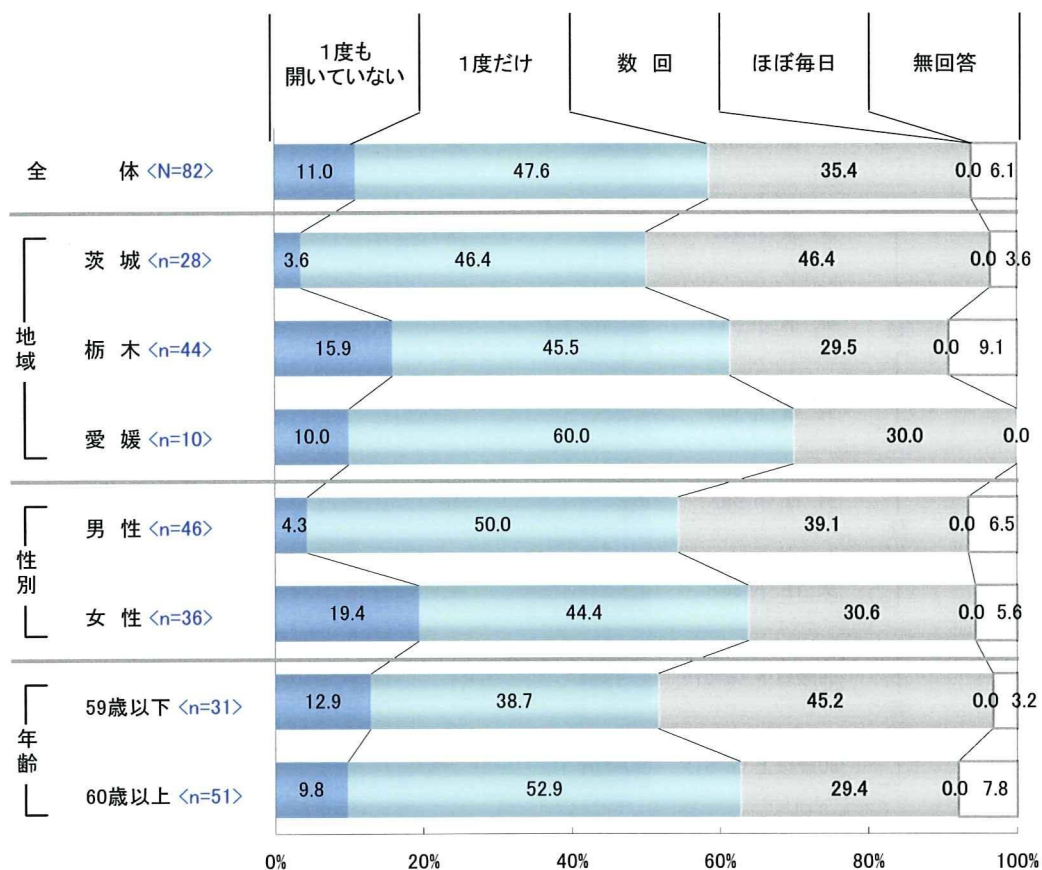
性別にみると、利用率は《男性》(89.1%)の方が《女性》(77.8%)より11ポイントほど高い。

年齢別にみると、利用率は《59歳以下》(87.1%)の方が《60歳以上》(82.4%)より高めである。

### 4-3. 『地域の療養情報』をどの程度利用したか

「1度だけ」(47.6%)、「数回」(35.4%)を合わせた、利用率は8割強(82.9%)で、3冊子の中で最も低い。また、「1度も開いていない」(11.0%)という人も1割強みられる。

図 20. 『地域の療養情報』をどの程度利用したか



地域別にみると、利用率は《茨城》(92.9%)、《愛媛》(90.0%)の9割台に比べて、《栃木》(75.0%)はかなり低くなっている。

性別にみると、利用率は《男性》(89.1%)の方が《女性》(75.0%)より14ポイントほど高い。

年齢別にみると、利用率は《59歳以下》(83.9%)、《60歳以上》(82.4%)と、いずれも8割台で同程度である。

## 5. 『患者必携』の中で、役に立ったところ、

### 使いにくかったところ、加えた方がよいと思う情報【自由回答抜粋】

#### a) がんになったら手にとるガイド

##### <役に立ったところ>

- ・自分の症状に合わせて詳しく知ることができ助かる。主治医に聞きづらかったり、時間的に聞けないことが解消されて良かった。インターネットでは分かりづらい内容も、分かりやすく書かれていて良かった。冊子の値段や無料配布になるかどうか気になる。
- ・がんとのかかり方を知れて良かった。
- ・がんについて何の認識もなかったのに、この冊子により、いろいろな事を知ることができた。
- ・いろいろなことがよく分かって良かった。字が大きいので、とても読みやすかった。
- ・外来治療の3日目に本冊子を主治医からもらい、がんに関する知識が分かりやすく記載されていたので、一気に読み切った。通院治療で時間に余裕があるので、参考になるところは繰り返し読んでいます。特に、がんになったらの心構えや家族との対話、公的助成・支援などは参考になった。
- ・今まで格別に関心を持たずにいたが、「がん」に対する知識を深めることができた。補完代替療法についての考え方は役に立った。
- ・がんについて知るのに役立った。ほとんどの内容が役に立つと思う。
- ・抗がん剤治療、放射線治療による副作用について、特に関心を持って読んだ。
- ・がんになった時、本やインターネットで情報を見たが、一冊にまとまっている本が欲しいと思った。本は結構高額だったので、冊子をもらえて嬉しかった。
- ・初めての病気だったので、大変役に立った。年齢的に、難しい言葉が分からない事もあったが、看護師に尋ねたりして読んだ。
- ・がんについて、概要を理解できた。
- ・冊子を読む前は心配事が多かったが、冊子を読んだからは、気持ちが落ち着いたので良かった。
- ・気持ちの問題から、入院中は冊子を手にとることができず、退院後に開いてみた。うなずける点がたくさんあったが、知識と実際の違いもあり、100人100様なので、これがといえる状態はないと思う。過去に言われていた予備知識とは異なってきていることが理解できるだけでも大きいと思う。
- ・心の支えに関することで家族に話すことができ、役に立った。
- ・その時の自分に合ったページをパラパラとめくって見ている。
- ・該当の病気のみしか読んでいないが、非常に参考になった。家に置いておいて、今後の備えにしたい。
- ・治療のことから、がんのことまで分かりやすかった。
- ・知らないことばかりだったので、何回も読んでいます。
- ・役に立ったところは、試作版106ページ、118ページ。どのような痛みでも我慢することは禁物である。口内炎・口腔乾燥の予防と対策なども良かった。ただ、手術に伴う主な合併症への対策、体の痛みなどの部分は恐怖心が増し、不安になった。

##### <使いにくかったところ>

- ・記述が丁寧で、分かりやすい内容となっているが、詳細であるがために冊子全体のページ数が多くなりすぎた感がある。
- ・年齢や職業にもよると思うが、専門用語も入っているので理解しにくい人もいるのではと思った。
- ・内容は理解できたが、もう少しページ数を減らしてほしい。
- ・字が小さくて、なかなか読めなかった。
- ・特に前半部はくどい感じのする部分があった。

#### <加えた方が良くと思う情報>

- ・患者必携ガイドマップとがん体験者の手記が良かった。また、がん体験者の手記はもっとたくさんあると良く思う。
- ・加えた方が良くと思う情報としては、化学療法の際の薬による副作用が最も気になるので、何点か挙げてほしい。
- ・主治医の説明と同じ内容が詳しく書かれてあり、よく分かった。病気の内容を、もう少し幅広く書いてほしい。
- ・就労の目安について知りたい。
- ・がんになった人の体験談とその後の生活、心の状態などをもっと詳しく知りたい。
- ・それぞれのがんを知るという章は、個別のがんについて詳しく記載されており、読みやすかった。ただ、患者が一番知りたい治療費のことが記載されてなく残念だった。がんによって、治療法によって、金額には大きな差があるだろうが、例を出すなどして、大体の金額が分かると安心するのではないか。高額治療費の項もやや分かりにくかった。
- ・患者本人が読むのは大変だが、家族にとっては大変詳しく書いてあり良かった。初期症状などは迷うので、もう少ししっかりと記載してほしい。冊子を読んで不安になってしまった。

#### <その他>

- ・自分がどうなるのか読むほど心配になり、毎日ストレスを感じた。
- ・年齢的に読んでもすぐに忘れてしまうので、必要な時にまた読めるように、手元に置いて役立てたいと思う。
- ・現実は分かるが、患者にとって夢や希望のあるものであってほしい。
- ・改めて読み返すと、それぞれがとてもよく書かれていると思う。しかし、冊子を渡されるタイミングが早く、最初の頃は見る気になれなかった。少し気持ちが落ち着いてから渡した方が良くはないか。